

生見尾踏切の安全対策の進め方について（報告）

1 概要

生見尾踏切は、いわゆる「開かずの踏切」であり、25年8月には、ご高齢の方が横断しきれずに、電車に撥ねられ死亡する事故が発生しました。

本市では、踏切上に新たな跨線人道橋を設置することとし、調整を進めていますが、地域の十分な合意が得られず実施に至っていません。

一方で、踏切近傍において工事ヤードとしての用地取得に目途が立ったため、この用地を利用して跨線人道橋の設置位置を変更し、早期事業化を図ります。

2 新たな計画の内容

(1) 現計画の調整状況

現計画は、全ての踏切利用者が安全で円滑に線路を横断できるよう、十分な規模と40人乗りの大型エレベーターを備えた跨線人道橋を現在の踏切上に設置する計画で、26年8月に公表し、調整を進めてきました。

しかしながら、この計画の実施により、現在の踏切が閉鎖となることから地域の方々の理解が得られておらず、既に事故から3年が経過しています。

(2) 新たな計画の内容

現計画の効率的実施を図るため、踏切近傍での工事ヤードの確保について調整を進めてきましたが、このたび地権者の協力を得ることができました。

このため、この用地を利用した跨線人道橋の設置について検討を進め、新たな計画を立案することができました。

この計画では、跨線人道橋の位置を鶴見駅側に移し、20人乗りエレベーターを両端に2基ずつ設置するもので、当面、踏切を機能させながらの施工が可能な案となっています。また、工事ヤードを線路外に確保できるため、施工の効率化を図ることができます。

踏切については、抜本的な安全を確保するためには閉鎖が必要であるため、工事を進めながら地域の方々の理解が得られるように丁寧な説明と対話を続けていきます。

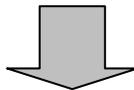
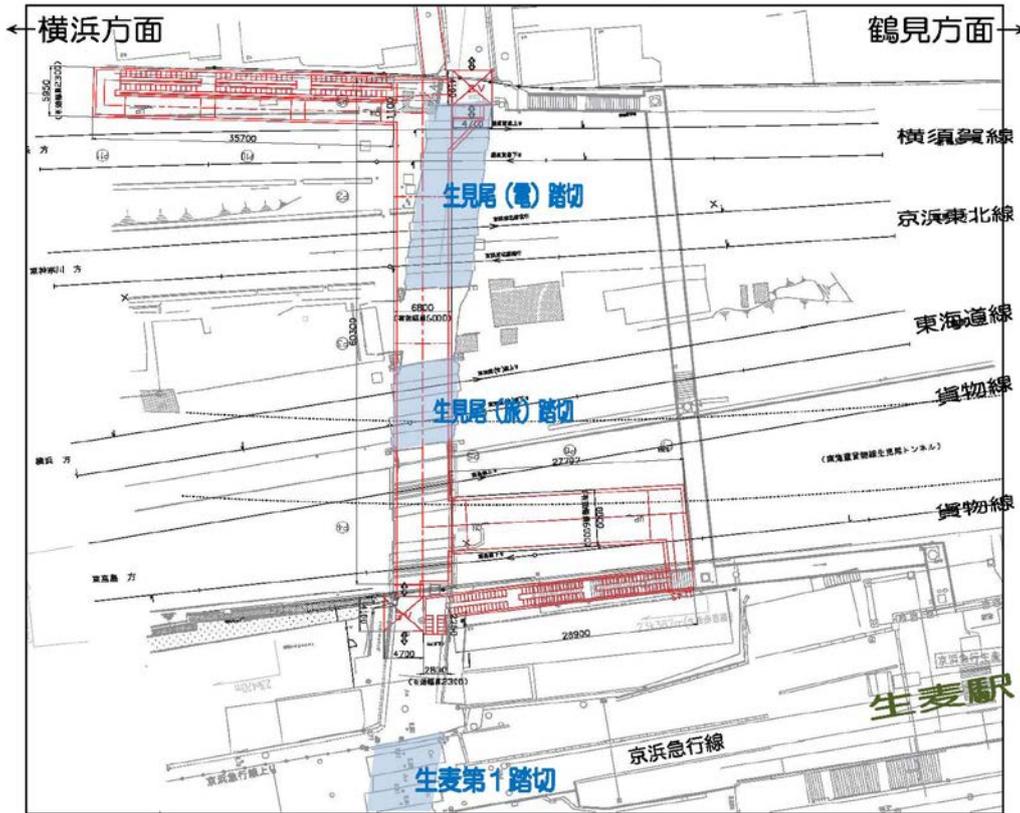
3 今後のスケジュール

工事はJR東日本に委託する予定であるため、今年度中に同社と跨線人道橋の設置に関する覚書を締結し、変更設計を進めていきます。

変更設計完了後に工事に着手しますが、線路内のケーブル等の支障物件移設に約1年、本体工事に約2年、合わせて3年程度の工期を必要とするものと見込んでいます。

現計画

延長	約 60m
幅員	6.0m
エレベーター	40人乗り 2基



新たな計画

延長	約 60m
幅員	6.0m
エレベーター	20人乗り 4基

